

杉並清掃工場

井の頭線高井戸駅近くに建つ杉並清掃工場を訪れました。現在、屋上や壁面が緑化された工場の周りには、芝生の広場、バラの花壇、藤棚、ウォーキングロード、ビオトープなどが手入れよく整備され、だれでも気軽に散歩を楽しめるようになっています。



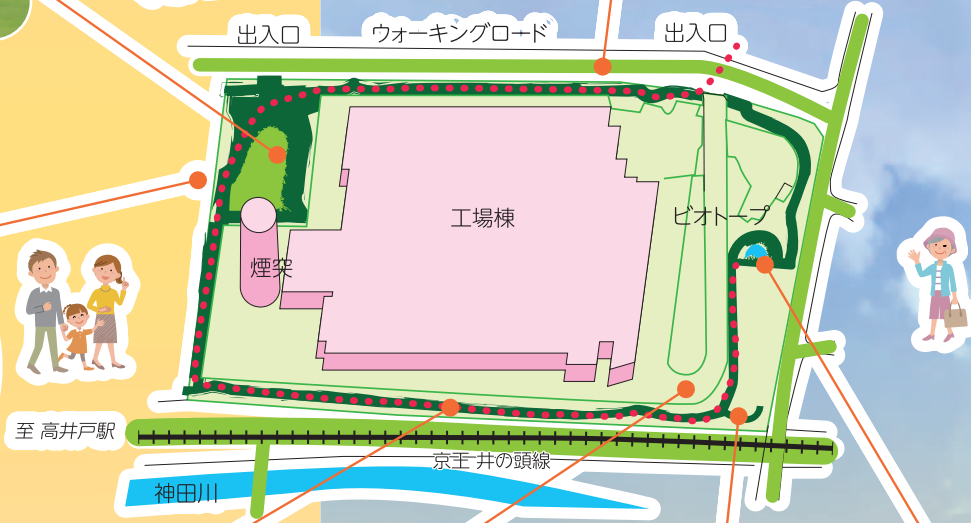
敷地の外の歩道も一体感をもったウォーキングロードとして整備されています。コナラ、シラカシ、サルスベリ、ヤマブキなど多くの木が植えられ、足下にはちょうどセンニチコウが元気よく咲いていました。



大きな白い煙突をバックによく手入れされた芝生が広がり、周りには、藤棚、株立ちの木々の植え込み、バラの花壇が配されています。



バラの花壇。アンネのバラをはじめ、数種類のバラが楽しめます。ボランティアと職員の方々が協同で手入れをされています。



セイヨウイボタンキに囲まれたベンチコーナー。



線路沿いにあるバラの花壇。バラの花越しに走る電車が見えます。



斑入りの葉が美しい



井の頭線沿いのウォーキングロード。サクラ、クスノキ、シラカシなどの樹木、ツツジ、アベリア、ツバキ、ギボウシなどの下草が並ぶ緑陰の散歩道です。



大きなサクラの下のビオトープ。鳥や昆虫が集まります。

昭和57年から稼働した初代工場は、老朽化により平成24年から5年をかけて平成29年に現在の新工場に生まれ変わりました。高井戸駅前の住宅地という珍しい立地ゆえに、近隣や環境、景観への配慮、調和が検討され、さまざまな工夫がなされており、見学者も多数訪れています。工場の上には太陽光発電パネルを設置、自然エネルギーを活用。また高効率の発電設備を導入し、CO₂排出量の削減に取り組ん

ています。焼却時のエネルギーで工場内の電気を全て賄い、余剰分は売電、隣接の地域区民センター温水プールや人気の「あし湯」にも利用されています。入口すぐのチューニーガーデンと名付けられた花壇には、高井戸中学校から分けてもらった「アンネのバラ」など複数のバラが春と秋を中心に訪れる人の目を楽しませています。

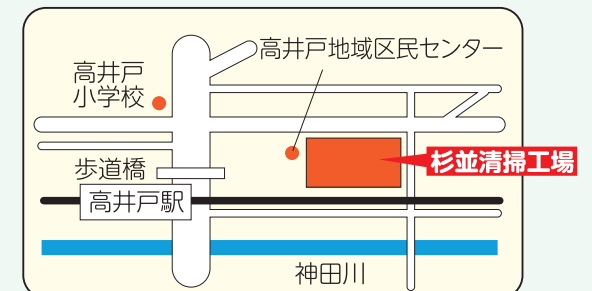
東京で3番目に高い

清掃工場の煙突の形や色、高さは一律ではなく、各区の景観条例等に基づき、周囲の景観に調和するように色合いを選定し、形状に関しては、圧迫感や日影等の環境を考慮して決定しているそうで、杉並区は160mと東京で3番目の高さとなっています。建て替えの際、煙突の外筒は耐震補強や再塗装を行い、再利用しています。

現在、杉並区は一人当たりのごみ排出量が東京で最も少なく、住民の意識の高さうかがえます。このことは、初代工場の建設計画から完成するまでのいわゆる「ごみ戦争」があり、足かけ9年にも及ぶ住民と行政の話し合い、歩み寄り、協力の結果開設したという歴史の上に立つものでしょう。平成20年度にはプラスチックごみの資源化、ペットボトルの回収が開始され、ごみの量は層減少する転換点になりました。杉並清掃工場の歴史は、東京ごみ戦争歴史みらい館の映像や展示で、新工場のしくみとともに確認できます。まちのランドマークでもあり、7年経ち植栽が増えたウォーキングロードやあし湯など癒しの面と併せ、環境学習の場も提供してくれている、地域に根差し、開かれた工場です。

迷いそうなとき... 見れば白く、高い道標。
杉並清掃工場

所在地 杉並区高井戸東3-7-6
 敷地面積 36000㎡ 地上5階地下3階



京王井の頭線、関東バス「高井戸駅」下車、徒歩5分